

古川高等学校

校訓 質実剛健 学問尊重 自主自律



1 基本データ

創立：明治30年
課程・学科：全日制課程・普通科
生徒数：703名（男380名/女323名）
所在地：〒989-6155
大崎市古川南町二丁目3番17号
TEL：0229-22-3034
FAX：0229-23-4621

ホームページアドレス：
<https://furuko.myswan.ed.jp/>
電子メールアドレス：
furuko@od.myswan.ed.jp
主な交通機関
JR東北新幹線・陸羽東線 古川駅下車 徒歩15分

2 学校の特徴

キャッチフレーズ

古高の歴史に新たなページを刻む

互いに個性を尊重し切磋琢磨する古高生
学習・部活動・学校行事に自主的に取り組む古高生
高い志をもち意欲的に取り組む古高生

(1) 学校の概要(沿革、環境、施設等)

明治30年に宮城県尋常中学校志田郡立分校として創立されて以来、第三中学、古川中学を経て古川高校となり、平成29年に創立120周年を迎えました。創立以来、大崎地方の教育・文化の中心として有為な人材を世に送り出し、名実共に「仙北の雄」と称せられる歴史と伝統を誇っています。

自由闊達な校風で、校章の由来となっている「蛸雪の功」の故事に倣って生徒は日夜、「質実剛健」「学問尊重」「自主自律」の校訓の下で文武両道に励んでいます。

校舎の全面耐震工事が平成20年に完了し、令和3年には普通教室にもエアコンが設置され、明るく快適な環境で学習できます。また、第二体育館、新体育館が新築され、創立100周年記念時には凌雲文化センターが、平成25年度にはスクールカラーを基調とした南校舎(普通教室棟)が新築されました。

学校敷地は、陸羽東線および東北新幹線古川駅から徒歩約15分の交通至便の市内中心部にあり、心とませる桜の古木や、歴史と伝統をしのばせるヒマラヤ杉、ケヤキ等の大樹に囲まれた閑静な勉学環境です。

(2) 教育方針

清潔にして健全な品性と学業を尊重する気風とを養い、自主自律の精神を持って自発的に行動できるような豊かな人間を育成するために、以下の3項目を教育目標に掲げています。1 健全な心身の育成 2 真理の探究 3 主体性の確立

(3) 教育課程の特色

授業は1時限45分7時限で行っています。

(1) 1学年は共通科目を履修し、特に国語・数学・英語の3教科には十分な時間をかけて学習できるように配慮しています。

(2) 2学年では、選択した科目に応じて文系・理系クラスでの授業を展開します。1学年で学習した内容を更に発展応用させ、安定した学力の定着を図ります。

(3) 3学年では、多様な進路希望や、多彩な大学入学選抜方法等のもとで、一人一人にきめ細かく対応できるよう、選択科目を開講しています。

(4) 授業は、夏季冬季の長期休業を短縮して授業日数を増やし、基礎基本の理解から、重要事項の定着にまで丁寧に、系統的に進めています。1・2学年全員を対象に「蛸雪講座」と呼ばれる講演会を年間5回程度開講しています。3学年においては、年間を通じて課外講習(0時限、8時限)を行い、学力伸長と実力の養成に努めています。

(4) 行事・生徒会活動・部活動

生徒の9割以上が大学進学を目標としながらも、学業面の成長に加えて、調和のとれた人間性の育成を目指しており、部活動や生徒会活動はたいへん活発です。また、企画や運営においても生徒の自主性や意見が尊重されており、一人一人が自分のやりたいことや個性を發揮できる自由で伸び伸びとした校風です。主な行事としては、対築館高校定期戦(4月)、船形山登山(5月)、古高祭(7月)、体育祭(9月)などがあります。

<令和5年度主な部活動の成績>

今年度の古高は、県総体や上部大会において活躍することができました。

山岳部 平成29年以来の最優秀校、男子は県総体で優勝し、インターハイに出場しました。

ソフトボール部男子 残念ながらインターハイは逃してしまいましたが、県総体で準優勝し、県新人でも準優勝し、ともに東北大会で大いに活躍しました。

陸上競技部 県総体で男子のリレー4位、女子ハンマー投げ3位 走り幅跳び4位。七種競技4位でいずれも東北大会出場という結果を残しました。県新人では男子三段跳び4位、女子走り高跳び2位、ハンマー投げ6位と活躍しました。

剣道部 男子個人がベスト8に入賞し、東北大会に出場しました。また剣道部女子個人では国体予選会で4位

に入賞して宮城県代表選手に選ばれました。

スキー部 県総体女子フリー1位、女子5kmクラシカル1位となり、東北大会、インターハイに出場しました。

文芸部 全国高校文芸コンクール詩部門入選 北海道・東北文芸大会に3名が出場しました。

○第64回 対築館高校定期戦：
勝利(12勝3敗)

通算 古川高校43勝VS築館高校17勝

(5) 卒業生の進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	R5	R4	R3
国公立大学	87	107	88
国公立短大	1	1	2
私立大学	109	84	105
私立短大	5	2	4
専各学校	12	12	13
就職	4	7	4
その他	11	11	13
卒業生計	229	224	229

主な進路先(令和6年3月卒業生)

()内は人数 (1)は省略

<国公立大学>

東北大(4)、宮城教育大(6)、北教大釧路・函館校(5)、室蘭工大、弘前大(5)、岩手大(8)、秋田大(2)、山形大(5)、福島大(5)、茨城大、筑波大、宇都宮大(7)、千葉大、電気通信大、新潟大(2)、信州大、徳島大、釧路公立大(3)、青森公立大(2)、青森県立保健大、秋田県立大(3)、秋田公立美大(2)、岩手県立大(4)、宮城大(11)、福島県立医大、高崎経大(2)、埼玉県立大、千葉県立保健医療大、東京都立大、横浜国立大、都留文化大(3)、京都府立大

<私立大学>

東北学院大(23)、東北工業大(7)、東北福祉大(12)、東北医科薬科大、宮城学院女子大(7)、尚綱学院大、仙台大、白鷗大(7)、青山学院、法政大、明治大(2)、早稲田大、東海大(3)、専修大(3)、神奈川大(2)、北里大(2)、国際医療福祉大、東洋大、成蹊大、帝京大、國學院大、明治学院大、順天堂大、同志社大、立命館大、京都女子大、広島修道大 他

3 学校魅力発信

(1) 本校生徒の活躍 (令和5年度)

コロナ禍でも今年度の古高は、県総体や上部大会において活躍することができました。

山岳部は平成29年以来の最優秀校、男子が優勝しインターハイ出場となりました。ソフトボール部男子は、残念ながらインターハイは逃してしまいましたが、県で準優勝し、東北大会では大いに活躍することができました。陸上競技部は男子のリレー、女子の投てきや七種競技で東北大会出場という結果を残しました。

さらに個人では剣道部岩淵俊哉くんがベスト8に入賞し、東北大会に出場しました。また剣道部女子では、2年の櫻井凜乃さんが国体予選会で4位入賞して宮城県代表選手に選ばれ、岩手県で開催された東北総体では宮城県の副将として出場しました。

現在は、各運動部が地区新人大会、県新人大会での入賞を目指し、日々活動に励んでいるところです。

文化部も健闘していて、合唱部が県のコンクールで金賞、吹奏楽部が銀賞を受賞しました。

(2) 学校三大行事

定期戦 (対築館高校)

コロナ禍も収束がみえてきた頃、ようやく通常開催となった第64回大会。4月27日に実に4年ぶりとなる通常の開会式を古川高校グラウンドで行い、全15種目(うち3種目は事前に実施)による競技を行いました。どの学年の生徒も経験したことのない、コロナ禍以前の形態での定期戦となりました。今年度は応援練習も中止となることなく、両校ともに非常に厳しい応援練習を乗り越えて当日を迎えました。昨年度は古川高校の9勝4敗と大差で勝利しており、今年度も再び、応援生徒が見ている前で大勝を果たす、4年ぶりとなる開会式で全校生徒による凱歌を披露する、という強い気持ちで試合に臨みました。

当日は晴天に恵まれ、両校の全校生徒、並びに多くの職員が経験したことのない開会式が盛大に行われました。久しぶりの応援団長の口上に、涙する職員の姿も少なくありませんでした。開会式後は綱引き競技が、これも4年ぶりの実施となりました。男子は古高が2連勝を飾り、女子は1勝1敗の決定戦へもつれ込む大接戦。3年生12名による決定戦を古高が制し、まずは2連勝と大きくアドバンテージを取りました。結果は、このアドバンテージを大きく活かした古川高校が12勝3敗と、2年連続で築館高校を圧倒する結果となりました。我々古川高校は、引き続き開催となる地区、県の高校総体に向けて、各部勢いをつけることができました。



古高祭

ここ3年、コロナ禍の中で大幅に縮小されてしまった古高祭。今年度はコロナ感染症が5類に移行したことを受けて、思い切ってコロナ以前の、「本来の古高祭」を、完全無制限で実施しました。しかし、すでにコロナ以前を知る高校生はおらず、1つ1つ探索しながらの古高祭ではありました。多くの試行錯誤を繰り返しながら、一般公開当日は大変な数のお客さんに圧倒されながらも、大いに古高生パワーを大爆発させました。

今年度の古高祭では、昨年度に引き続き全校モザイクアート製作や古高祭オリジナルグッズの販売などを実施し、ステージ発表の「クラスパフォーマンス」では昨年多かった「動画の部」を全廃し、参加者全員が全校生徒の前で生パフォーマンスを披露し、大変な盛り上がりとなりました。実行委員は例年通り当日まで大忙しでしたが、「コロナ以前」を目指しながらも全く新しい形式の「全員参加型古高祭」を完成させることができました。

今年度の古高祭実行委員会もすでに動きつつあり、生徒が創り上げる盛大なお祭りは今後も勢いを増していきそうです。



体育祭

昨年9月1・2日には待望の体育祭が実施されました。こちらもほぼ例年通り、2日間での開催とし、1日目は球技の予選、2日目は球技の決勝と運動会競技を実施しました。昨年度に引き続き、開会式の準備体操時には恐怖の応援団が登場し、コミカルに踊りながら体を動かし和やかにスタートしました。各競技とも非常に熱が入り、レベルの高い試合が展開されました。多くの競技で3年生の活躍が目立ち、最後にかかる意気込みが伝わりました。最後の学校行事を意欲的に楽しもうとする姿が、本当に印象的でした。



(3) 学校制服紹介

学校指定の制服はありません。

ただし、服装については、古高生としての自覚と良識に基づいて各自判断し、かりそめにも恣意・放縦・華美に流れるようなことはあってはなりません。

また、容儀を正すことは自己の人格を尊重し、気品を高尚にするものであり、礼節は自己の品位を高め、他に対する敬愛の発露であるから、これを軽視してはなりません。

(4) 施設紹介

平成26年南校舎が普通教室棟新校舎として落成しました。また、同年トレーニングルームも設置、令和3年には普通教室にエアコン、グラウンドには照明灯が設置され、生徒の利便性が図られています。

北校舎の特別教室棟は昭和46年建設当時のままであり、今後、老朽化した校舎の刷新が待たれます。



4 在校生からのメッセージ

生徒会長 菅原 太智さん (古川西中出身)

ここではパンフレットには書かれていない、入学しないと分からない古川高校の良いところを皆さんにお教えします。文字数に制限があるため具体的には書けませんが、古川高校では進路実現のため、講座や講演会が定期的に開催されているほか、大学の情報収集だけでなく担当の先生方と進路相談を行うことができる進路相談室という部屋があります。また、部活動に関しても運動部、文化部ともに活発であり、各々が目標を掲げて活動しています。これらのことから古川高校では生徒一人一人が個性を發揮して自分のやりたいことをやることができる環境が整備されていると言えます。古川高校に入学して自分の夢を叶えてみませんか？ぜひお待ちしております。

応援団長 米林 大雅さん (小野田中出身)

本校は明治・大正・昭和・平成、そして令和という長い歴史が刻まれており、先輩達の努力によって地域の中心的な進学校となり、卒業生は各界でご活躍なさり輝かしい功績を残されています。本校の生徒は、積極的な姿勢で自らを成長させる「自主自律」を重んじ、自由を尊重する素養を備えています。それぞれの生徒が各々の持ち味を發揮し、伸び伸びときまりよく学校生活を送っています。近年では、JSBNといったキャリアセミナープログラムやGlobal Studies Programという外国語でのコミュニケーションを涵養するプログラムなどが開催されており、生徒の可能性を広げるための活動が活発に行われています。一年の中で一番の盛り上がりを見せる定期戦では、全校生徒が勝利に向かって一丸となり築館高校に挑みます。定期戦とそれに向けて行われる応援練習を通して成長する姿が多く見受けられます。そんな魅力の多い古川高校への入学を皆さんも考えてみませんか。